

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0492600028		
法人名	(株)ウェルフェアフォレスト		
事業所名	グループホーム 十符の里	ユニット名	1丁目
所在地	宮城県宮城郡利府町菅谷台4-2-13		
自己評価作成日	平成24年9月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームという生活の場を活かし、利用者様個々のペースに合わせた支援を行っております。日々のレクリエーション、体調に応じて外出、買い物など実施しております。又、定期的に開催する、ボランティアさんによる慰問、フラダンスや、軽体操、歌、と地域交流を図っております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成24年10月11日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者はじめ職員は理念に基づき、一人ひとり違う生活のペースに寄り添いながら、入居者本人の言葉、毎日の生活の中で見せる動作や仕草をよく見ることで思いや体調を感じ取って支援に生かし、たとえわずかでも自立に繋げていく努力をしている。町内会では「シルバー会」の清掃活動に協力し、地域の方に事業所への理解をしてもらえるよう努めている。団地サークルの踊りや楽器演奏を楽しんだり傾聴ボランティアの受け入れなど地域との交流も盛んである。運営推進会議では10名を超える家族の方の参加があった。毎回、町役場担当者、地域包括支援センター各担当者が出席しており、今後は内容的にも更に充実していくことが期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(事業所名 グループホーム 十符の里)「ユニット名 1丁目」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホーム玄関の見やすいところに掲げておりいつでも確認できるようにしている。またケアプランなどにも理念にある、個別のニーズに応えられるよう組み込んでいる。	事業所独自の理念である。9月に見直しをした際に理念についても確認した。入浴時間や外出、食の希望など一人ひとりのニーズを把握し、安心して心地よい生活が送れるよう職員は理念を日々の実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加させて頂き、運営推進会議にも参加御協力を頂いている。又、地域の学生の職場体験、ボランティアを積極的に受け入れしている。	町内会に加入しており、地域の清掃活動に参加して、事業所への理解も進んできている。近くの中学生の見学の受け入れや、団地サークルの方のフラダンスやオカリナの演奏を楽しみ交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際に認知症ケアの取り組みを説明し、地域の方々により深い理解を頂けるよう働きかけている。又、施設への申込や、問合せの際に施設での取り組みや、関連施設をご説明しより良い環境が提供出来るよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月毎の開催となる。期間中に行ってきた行事やサービス状況、事故、利用者様、ご家族様からの意見を伺い改善に努めている。	2カ月に1回年6回開催している。町役場の担当者、地域包括の担当者は毎回参加している。全家族に参加を呼びかけた結果多い時には13名の参加があった。議事録は家族へ回覧し、町役場にも渡されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利府町役場担当者、利府町地域包括支援センターの皆様には運営推進会議に毎回ご参加頂いている。その都度的確なアドバイスを頂く事があり、日ごろの業務に役立っている。又、事業所において分からない事がある際には、ご相談させて頂いている。	利府町役場主催の介護福祉施設間の交流や情報の交換を目的とした「ケアマネジャー連絡会」に参加した。また町から後見人制度のパンフレットが配布され、勉強会等の参考にしてている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングの際に、身体拘束に関する資料を職員全員に目を通してもらい、身体的障害、精神的弊害、社会的弊害についての勉強会を設け身体拘束を行わない取り組みを常に考え業務にあたっている。	玄関は内側から開けることが出来るが、外からは暗証番号が必要な構造となっている。月一度のカンファレンスで身体拘束について話し合う他、随時勉強会を行い、身体拘束することによって起こりうる弊害について職員は理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングの際に時間を設け話し合いをしている。また利用者様の身体、精神状況を把握し日頃些細な変化がないか観察している。その中で、日頃のケアが利用者様にとって不適切に当たらないかと、職員間で確認し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングの際に時間を設け話し合いをしている。又、内容も難しい事から、外部研修参加者の資料や、報告会を行い学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には、重要事項説明書の読み合わせをし御理解を頂いた上で契約締結としている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常日頃の面会や、運営推進会議の際に頂いたご意見をミーティングの際に検討し、運営、日頃の業務に活かしている。又、玄関先に設置してある御意見箱を皆様に活用して頂いている。	耳の遠い方の家族の要望で集音器を用いて聞き取りが改善し、また食の細かい方が入居前好んでいた食品を家族の話から知りケアに活かした。さらに家族の意見に耳を傾けていただきたい。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの際には管理者も出席し疑問等あればその都度話し合っており、その他にも個人面談等の時間をとっている。	ミーティングや全体会議で職員の意見を聞いている。職員の提案で日中のオムツを外す試みを繰り返した結果、自立された方が2名いる。職員全体の業務バランス調整のための職員個人面談がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社役員が毎週1回施設巡回し、管理者を通しての聞き取りを行い、現場の状況確認を行っている。状況に応じて、随時の職員面談を行っている。昇給、賞与に限らず経験年数や、能力によりしっかりと評価され、職員の向上心アップにつながっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社からの研修に関する情報や、資料が渡され、積極的に参加している。又、関連施設、病院での勉強会の参加も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内にある関連施設との共同勉強会の開催、業務に関する意見交換を実施し、より良いサービスが提供できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査や見学の際にも不安で困っている事や希望していることなどについてお伺いし不安の軽減や希望達成できるよう説明している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族が納得し安心して利用していただけるよう何度でも見学などに足を運んで頂けるよう説明している。入所後も随時、不安や疑問について説明できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談に伺った、ご家族様、ご利用者様の情報をもとにアセスメントをしっかりとし、サービス利用に関しても、協力医療機関の主治医、看護師の意見も反映させている。他機関への紹介及び連絡調整も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と共に掃除や洗濯などの家事に限らず、生活の中での役割がある事から、生きがい、充実感を得られるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の面会時においても、ご家族様との情報交換をしっかりと行っている。病院受診に限らず、外泊、外出と御家族様との時間を設けて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様の希望や体調など考慮しながら、ドライブや散歩などに出かけている。又、ご契約前の説明時においても、御親戚に限らず、友人等の面会についても関係性を保てるようご説明している。	家族が訪ねてくるのは週に3、4人位である。馴染の方が亡くなれたりすると喪失感が深く、どうフォローするかが課題であるが、職員は声掛けを多くし、行事に誘うなどの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活を通じて、ご利用者様同士が協力し合いながら活動できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	随時、ご利用者様や御家族様の相談を受け付けており、他のサービスの紹介など行っている。契約中、契約終了後においても、利用者様、ご家族様の必要に応じ相談、支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の行動や日常の会話などからニーズを把握できるように努め、ケアプランに反映している。	散歩やドライブ、入浴の時などに聞き取ることが多い。眠れない方には職員で話し合い受診に繋げ改善された。足の運びや体の傾き、笑い顔が見えないことなどで言葉の少ない方の思いや体調を察知できる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に生活歴や生活環境について調査を行っており、日常会話から得られる情報や面会時にご家族から得られた情報を職員全員で把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りやミーティングなどの際に一人一人の心身状況などを職員間で共有し、その状態に合わせてケアの方向を話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様、ご家族の希望を伺い、アセスメント等を実施。職員、主治医関係職種に意見を伺い、ケアプランの原案を作成、それをもとにカンファレンスにて原案が適切か検討し、ケアプランを作成している。	期間の途中で介護度が変わった方のプラン見直しについては、家族に充分説明し話し合った上で再度作成し同意を得ている。2か月に一度は見直しをし、月一度の評価を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りや、ミーティングで職員間で話し合い、情報共有した上で、ケアの方向性を検討し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の身体的状況の変化には、福祉用具の提案、また、栄養補助食品の提供を実施している。自施設では提供が難しいサービスについても関係機関の紹介や連携をとりながらサービス提供できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者様との外出時には近隣のスーパーや、ホームセンターで希望に沿った物を選び購入されている。又、町内の回覧板による地域資源の紹介もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様、ご家族様の希望に応じて医療機関を定めている。重篤な疾患がある場合には専門機関の受診を合わせて検討して頂いている。	月に二度の契約医療機関の医師による往診があり、家族の安心に繋がっている。専門医への受診は職員が同行している。申し送りノートに本人の状況、受診結果や医師の助言などを記録している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な往診がありその際に主治医、看護師に相談しており、必要な際には随時連絡をとり合い相談、助言、現地での対応を行って頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際にはこまめに面会に行き、医師、看護師、相談員に病状を確認している。ご家族様とも連携を図り、早期の退院に向け関係機関との連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関との連携はあるが、定期的な往診となっており、日々の医療に対する行為は行っておらずターミナルケアは実施していない。心身の状態に応じた、福祉施設、医療機関への入所、入院ができるよう連絡、調整を行っている。	法人として看取りはしない方針である。入居の段階で入居者の状況に応じて 1. 重度化した際の介護についての同意書 2. 高齢、重篤な疾患の方の入居に関する同意書 のどちらかを入居者、家族と取り交わしているが段階に応じた意思確認が必要である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングの際に時間を設け、実践している。基本的な応急手当及び、利用者様の既往歴から起こりうる急変時の対応方法についても検討している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	町内会に参加させて頂いており、地域の避難場所も把握している。避難訓練も実施している。	指定避難所よりも安全に避難できる近くの広場の方が現実的だと近所の方の助言で避難場所はそこに決めている。昨年12月に行った訓練が最後でその後防災避難訓練は行われていない。	夜間想定を含む防災避難訓練を消防署の協力を得て、最低年2回は実施していただきたい。地域住民の方の具体的な訓練への参加を繰り返し呼び掛けることも必要と思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の尊厳を守る事ができるように心掛け対応している。合わせて、接遇や日頃の言葉使いにおいても職員間で声を掛け合い適切な対応を心掛けている。	下の名前にさん付けで呼びかけている。失敗した時やトイレ誘導の際には手早く動作しながらも、やさしく、おちついて声掛けし安心させることを心掛けている。調査時の居室拝見の時は入居者に一声かけことわっていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様が希望を上手に伝えられるように、ご利用者様に合わせた声掛けの工夫をしている。気遣いなくお話して頂けるような、日頃からの信頼関係の構築にも力を注いでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のペースに合わせて、ゆったりと安心して過ごせるよう慌たたくしないようにケアに当たっている。ご利用者様の希望に合わせて外出や買い物などの援助を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様の希望を聞きながら行っており、着なれた物はご家族様と相談し自宅から持って来て頂いている。気候に応じ色、生地は職員が配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士が作成した献立をもとに、ご利用者様の協力を得ながら調理している。各季節ごとの料理も提供している。個々の嗜好も異なる事から月に数回好きな物を購入し食べて頂いている。	食材は管理栄養士による献立に従って配達され、職員が調理している。入居者は皮むきや食器拭きなどを手伝う。希望によりうなぎや寿司、パンなどを楽しむこともある。職員と一緒に会話しながら楽しくがモットーである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様の状態に合わせながら、栄養補助食品、食事量など調整しており、水分量も毎日チェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施しており清潔の保持に努めている。月2回、協力歯科医院の訪問歯科診療があり歯科衛生士による口腔ケア指導を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様の排泄パターンに合わせてトイレ誘導を行い、トイレで排泄し、失禁が減り自信回復、自立に向けた支援を心掛けている。	トイレ誘導に努め、自立した方が2名いる。夜間は安眠優先の考えから、オムツを使用する方や声掛けでトイレに行く方、自分で起きる方もいる。排便については食欲に注意を払い、トイレ後の確認で把握に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常に排泄チェックを行い、水分や食事量の調整を行っている。又、レクリエーションによる軽体操も実施している。状況に応じ、往診時に主治医に相談をしながら下剤の調整をお願いしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望に合わせて随時、入浴を提供している。	毎日入浴出来、希望に沿って昼間も夜間も対応している。拒否の方の対応は主に声かけであるが、拒否の強い方には家族の協力を得たり、職員何人かで連携し合い、気持ちよく入浴していただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	フロアのソファーや、小上がりで休まれる方に、個々に安心できる場所を提供し安心できる環境、雰囲気を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に新しく処方された薬については処方箋、薬剤辞書などで作用、副作用等について把握に努めている。服用後の利用者の状態も常に観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の状態に合わせ、日常生活お手伝いをして頂いたり、散歩やドライブ、歌などを取り入れ気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者様の体調や天候などを考慮した上で買い物やドライブの援助を行っている。身体的状況等により外出が困難な方に関しては、ご家族様が写真や、草花を持参されできる限りのニーズに添えるよう支援している。	日常的に2、3人ずつの散歩を行っており、ドライブは週2回くらい行っている。車椅子の外出は転倒の心配がないので控えることはない。外出は入居者について新しい発見をする機会ともなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様、ご家族様了承の上で自己責任でご利用者様に管理して頂いている。自己管理の難しい方や大きな金額については金庫にて管理し希望があればいつでも使用できるようになっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様の希望に合わせていつでも電話を利用して頂けるようになっている。手紙の代わりに日記をつけ、面会時に読んで頂く等の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓からはフロアへ適度に光がさしこむような造りになっており、空調設備などを調整しながら適度な環境づくりをしている。	片流れの高い天井には天窓がついており、柔らかい光が心地よい、居間兼食堂である。誕生会や行事の写真が飾られ暖かい雰囲気があり、入居者の方も和やかに過ごしている。季節を感じさせるような草花などが活けてあると良いと思われた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室や談話コーナーなど設けており、独りであったり、数人で過ごせるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にご本人やご家族と相談の上、使い慣れたものや馴染みのものなど持ち込んで頂いている。	家族からのプレゼントの品や家の庭の様子を写した写真などが飾られている部屋やすっきりと片付いた部屋などその人らしく心地よく安心して過ごせるようにしつらえられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体がバリアフリーになっている。安全にわかりやすく活動できるよう、トイレなどみやすいように看板を設置したりしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0492600028		
法人名	(株)ウェルフェアフォレスト		
事業所名	グループホーム 十符の里	ユニット名	2丁目
所在地	宮城県宮城郡利府町菅谷台4-2-13		
自己評価作成日	平成24年9月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様お一人お一人の生活ペースを尊重し、個々の状態に合わせて家事のお手伝いや、裁縫、買い物とこれまで培ってきたものを最大限発揮できる環境を提供しております。些細な事でも協力し、成し遂げられる喜びを多く感じて頂き、日々の生活の充実感、満足感が得られるよう支援しております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成24年10月11日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者はじめ職員は理念に基づき、一人ひとり違う生活のペースに寄り添いながら、入居者本人の言葉、毎日の生活の中で見せる動作や仕草をよく見ることで思いや体調を感じ取って支援に生かし、たとえわずかでも自立に繋げていく努力をしている。町内会では「シルバー会」の清掃活動に協力し、地域の方に事業所への理解をしてもらえるよう努めている。団地サークルの踊りや楽器演奏を楽しんだり傾聴ボランティアの受け入れなど地域との交流も盛んである。運営推進会議では10名を超える家族の方の参加があった。毎回、町役場担当者、地域包括支援センター各担当者が出席しており、今後は内容的にも更に充実していくことが期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(事業所名 グループホーム 十符の里)「ユニット名 2丁目」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホーム玄関の見やすいところに掲げておりいつでも確認できるようにしている。介護現場において迷った際には、理念を振り返り、再確認しケアに取り組んでいる。	事業所独自の理念である。9月に見直しをした際に理念についても確認した。入浴時間や外出、食の希望など一人ひとりのニーズを把握し、安心して心地よい生活が送れるよう職員は理念を日々の実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加させて頂き、運営推進会議にも参加御協力を頂いている。又、地域の学生の職場体験、ボランティアを積極的に受け入れしている。	町内会に加入しており、地域の清掃活動に参加して、事業所への理解も進んできている。近くの中学生の見学の受け入れや、団地サークルの方のフラダンスやオカリナの演奏を楽しみ交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際に認知症ケアの取り組みを説明し、地域の方々により深い理解を頂けるよう働きかけている。又、施設への申込や、問合せの際に施設での取り組みや、関連施設をご説明しより良い環境が提供出来るよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月毎の開催となる。期間中に行ってきた行事やサービス状況、事故、利用者様、ご家族様からの意見を伺い改善に努めている。	2カ月に1回年6回開催している。町役場の担当者、地域包括の担当者は毎回参加している。全家族に参加を呼びかけた結果多い時には13名の参加があった。議事録は家族へ回覧し、町役場にも渡されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利府町役場担当者、利府町地域包括支援センターの皆様には、運営推進会議に毎回ご参加頂いている。その都度的確なアドバイスを頂く事があり、日頃の業務に役立っている。又、事業所において分からない事がある際には、ご相談させて頂いている。	利府町役場主催の介護福祉施設間の交流や情報の交換を目的とした「ケアマネジャー連絡会」に参加した。また町から後見人制度のパンフレットが配布され、勉強会等の参考になっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングの際に、身体拘束に関する資料を職員全員に目を通してもらい、身体的障害、精神的弊害、社会的弊害についての勉強会を設け身体拘束を行わない取り組みを常に考え業務にあたっている。	玄関は内側から開けることが出来るが、外からは暗証番号が必要な構造となっている。月一度のカンファレンスで身体拘束について話し合う他、随時勉強会を行い、身体拘束することによって起こりうる弊害について職員は理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングの際に時間を設け話し合いをしている。また利用者様の身体、精神状況を把握し日頃些細な変化がないか観察している。その中で、日頃のケアが利用者様にとって不適切に当たらないかと、職員間で確認し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングの際に時間を設け話し合いをしている。又、内容も難しい事から、外部研修参加者の資料や、報告会を行い学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には、重要事項説明書の読み合わせをし御理解を頂いた上で契約締結としている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常日頃の面会や、運営推進会議の際に頂いたご意見をミーティングの際に検討し、運営、日頃の業務に活かしている。又、玄関先に設置してある御意見箱を皆様に活用して頂いている。	耳の遠い方の家族の要望で集音器を用いて聞き取りが改善し、また食の細かい方が入居前好んでいた食品を家族の話から知りケアに活かした。さらに家族の意見に耳を傾けていただきたい。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの際には管理者も出席し疑問等あればその都度話し合っており、その他にも個人面談等の時間をとっている。	ミーティングや全体会議で職員の意見を聞いている。職員の提案で日中のオムツを外す試みを繰り返した結果、自立された方が2名いる。職員全体の業務バランス調整のための職員個人面談がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社役員が毎週1回施設巡回し、管理者を通しての聞き取りを行い、現場の状況確認を行っている。状況に応じて、随時の職員面談を行っている。昇給、賞与に限らず経験年数や、能力によりしっかりと評価され、職員の向上心アップにつながっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社からの研修に関する情報や、資料が渡され、積極的に参加している。又、関連施設、病院での勉強会の参加も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内にある関連施設との共同勉強会の開催、業務に関する意見交換を実施し、より良いサービスが提供できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査や見学の際にも不安で困っている事や希望していることなどについてお伺いし不安の軽減や希望達成できるよう説明している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族が納得し安心して利用していただけるよう何度でも見学などに足を運んで頂けるよう説明している。入所後も随時、不安や疑問について説明できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談に伺った、ご家族様、ご利用者様の情報をもとにアセスメントをしっかりと、サービス利用に関しても、協力医療機関の主治医、看護師の意見も反映させている。他機関への紹介及び連絡調整も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と共に掃除や洗濯などの家事に限らず、生活の中での役割がある事から、生きがい、充実感を得られるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の面会時においても、ご家族様との情報交換をしっかりと行っている。病院受診に限らず、外泊、外出と御家族様との時間を設けて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様の希望や体調など考慮しながら、ドライブや散歩などに出かけている。又、ご契約前の説明時においても、御親戚に限らず、友人等の面会についても関係性を保てるようご説明している。	家族が訪ねてくるのは週に3、4人位である。馴染の方が亡くなられたりすると喪失感が深く、どうフォローするかが課題であるが、職員は声掛けを多くし、行事に誘うなどの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活を通じて、ご利用者様同士が協力し合いながら活動できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	随時、ご利用者様や御家族様の相談を受け付けており、他のサービスの紹介など行っている。契約中、契約終了後においても、ご利用者様、ご家族様の必要に応じ相談、支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の行動や日常の会話などからニーズを把握できるように努め、ケアプランに反映している。	散歩やドライブ、入浴の時などに聞き取ることが多い。眠れない方には職員で話し合い受診に繋げ改善された。足の運びや体の傾き、笑い顔が見えないことなどで言葉の少ない方の思いや体調を察知できる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に生活歴や生活環境について調査を行っており、日常会話から得られる情報や面会時にご家族から得られた情報を職員全員で把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りやミーティングなどの際に一人一人の心身状況などを職員間で共有し、その状態に合わせてケアの方向を話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様、ご家族の希望を伺い、アセスメントを実施。職員、主治医関係職種に意見を伺い、ケアプランの原案を作成、それをもとにカンファレンスにて原案が適切か検討し、ケアプランを作成している。毎月居室担当者がモニタリングを実施している。	期間の途中で介護度が変わった方のプラン見直しについては、家族に充分説明し話し合った上で再度作成し同意を得ている。2か月に一度は見直しをし、月一度の評価を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りや、ミーティングで職員間で話し合い、情報共有した上で、ケアの方向性を検討し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の身体的状況の変化には、福祉用具の提案、また、栄養補助食品の提供を実施している。自施設では提供が難しいサービスについても関係機関の紹介や連携をとりながらサービス提供できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者様との外出時には近隣のスーパーや、ホームセンターで希望に沿った物を選び購入されている。又、町内の回覧板による地域資源の紹介もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様、ご家族様の希望に応じて医療機関を定めている。重篤な疾患がある場合には専門機関の受診を合わせて検討して頂いている。	月に二度の契約医療機関の医師による往診があり、家族の安心に繋がっている。専門医への受診は職員が同行している。申し送りノートに本人の状況、受診結果や医師の助言などを記録している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な往診がありその際に主治医、看護師に相談しており、必要な際には随時連絡をとり合い相談、助言、現地での対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際にはこまめに面会に行き、医師、看護師、相談員に病状を確認している。ご家族様とも連携を図り、早期の退院に向け関係機関との連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関との連携はあるが、定期的な往診となっており、日々の医療に対する行為は行っておらずターミナルケアは実施していない。心身の状態に応じた、福祉施設、医療機関への入所、入院ができるよう連絡、調整を行っている。	法人として看取りはしない方針である。入居の段階で入居者の状況に応じて 1. 重度化した際の介護についての同意書 2. 高齢、重篤な疾患の方の入居に関する同意書 のどちらかを入居者、家族と取り交わしているが段階に応じた意思確認が必要である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングの際に時間を設け、実践している。基本的な応急手当及び、利用者様の既往歴から起こりうる急変時の対応方法についても検討している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	町内会に参加させて頂いており、地域の避難場所も把握している。避難訓練も実施している。	指定避難所よりも安全に避難できる近くの広場の方が現実的だと近所の方の助言で避難場所はそこに決めている。昨年12月に行った訓練が最後でその後防災避難訓練は行われていない。	夜間想定を含む防災避難訓練を消防署の協力を得て、最低年2回は実施していただきたい。地域住民の方の具体的な訓練への参加を繰り返し呼び掛けることも必要と思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の尊厳を守る事ができるように心掛け対応している。合わせて、接遇や日頃の言葉使いにおいても職員間で声を掛け合い適切な対応を心掛けている。	下の名前にさん付けで呼びかけている。失敗した時やトイレ誘導の際には手早く動作しながらも、やさしく、おちついて声掛けし安心させることを心掛けている。調査時の居室拝見の時は入居者に一声かけことわっていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様が希望を上手に伝えられるように、ご利用者様に合わせた声掛けの工夫をしている。気遣いなくお話して頂けるような、日頃からの信頼関係の構築にも力を注いでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のペースに合わせて、ゆったりと安心して過ごせるよう慌たたくしないようにケアに当たっている。ご利用者様の希望に合わせて外出や買い物などの援助を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様の希望を聞きながら行っており、着なれた物はご家族様と相談し自宅から持って来て頂いている。気候に応じ色、生地は職員が配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士が作成した献立をもとに、ご利用者様の協力を得ながら調理している。各季節ごとの料理も提供している。個々の嗜好も異なる事から月に数回好きな物を購入し食べて頂いている。	食材は管理栄養士による献立に従って配達され、職員が調理している。入居者は皮むきや食器拭きなどを手伝う。希望によりうなぎや寿司、パンなどを楽しむこともある。職員と一緒に会話しながら楽しくがモットーである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様の状態に合わせながら、栄養補助食品、食事量など調整しており、水分量も毎日チェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施しており清潔の保持に努めている。月2回、協力歯科医院の訪問歯科診療があり歯科衛生士による口腔ケア指導を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様の排泄パターンに合わせてトイレ誘導を行い、トイレで排泄し、失禁が減り自信回復、自立に向けた支援を心掛けている。	トイレ誘導に努め、自立した方が2名いる。夜間は安眠優先の考えから、オムツを使用する方や声掛けでトイレに行く方、自分で起きる方もいる。排便については食欲に注意を払い、トイレ後の確認で把握に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常に排泄チェックを行い、水分や食事量の調整を行っている。又、レクリエーションによる軽体操も実施している。状況に応じ、往診時に主治医に相談をしながら下剤の調整をお願いしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様の希望に合わせて随時、入浴を提供している。又、入浴前、後に嗜好品の飲み物等を提供しより有意義な時間になるよう支援している。	毎日入浴出来、希望に沿って昼間も夜間も対応している。拒否の方の対応は主に声かけであるが、拒否の強い方には家族の協力を得たり、職員何人かで連携し合い、気持ちよく入浴していただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	フロアーのソファーや、小上がりで休まれる方に、個々に安心できる場所を提供し安心できる環境、雰囲気を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に新しく処方された薬については処方箋、薬剤辞書などで作用、副作用等について把握に努めている。服用後の利用者の状態も常に観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の状態に合わせ、日常生活お手伝いをして頂いたり、散歩やドライブ、歌などを取り入れ気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者様の体調や天候などを考慮した上で買い物やドライブ、床屋への付き添いの援助を行っている。身体的状況等により外出が困難な方に関しては、ご家族様が写真や、草花を持参されできるだけ限りのニーズに添えるよう支援している。	日常的に2、3人ずつの散歩を行っており、ドライブは週2回くらい行っている。車椅子の外出は転倒の心配がないので控えることはない。外出は入居者について新しい発見をする機会ともなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様、ご家族様了承の上で自己責任でご利用者様に管理して頂いている。自己管理の難しい方や大きな金額については金庫にて管理し希望があればいつでも使用できるようになっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様の希望に合わせていつでも電話を利用して頂けるようになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓からはフロアへ適度に光がさしこむような造りになっており、空調設備などを調整しながら適度な環境づくりをしている。	片流れの高い天井には天窓がついており、柔らかい光が心地よい、居間兼食堂である。誕生会や行事の写真が飾られ暖かい雰囲気があり、入居者の方も和やかに過ごしている。季節を感じさせるような草花などが活けてあると良いと思われた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室や談話コーナーなど設けており、独りであったり、数人で過ごせるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にご本人やご家族と相談の上、使い慣れたものや馴染みのものなど持ち込んで頂いている。	家族からのプレゼントの品や家の庭の様子を写した写真などが飾られている部屋やすっきりと片付いた部屋などその人らしく心地よく安心して過ごせるようにしつらえられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体がバリアフリーになっている。安全にわかりやすく活動できるよう、トイレなどみやすいように看板を設置したりしている。活動で作成した物を掲示し明るい環境を共につくっている。		